



LOGICAL KO 夏原平和

■プロフィール 1944年9月15日彦根生まれ。68年、同志社大学法学部卒業と同時に(株)平和堂へ。83年には東近畿地域スパ本部(株)を設立し、同社の代表取締役社長に就任。89年5月より(株)平和堂・代表取締役社長。趣味はゴルフと釣り。



今しかできないうことを求め、
ビジネスシーンに生かす男

滋賀県が元氣だ。湖西のガリバー旅行村、湖北の黒壁ガラススクエアをはじめ、町を活性化する新・名所が生まれ、日ごと賑わいをみせている。F.M.しが開局の噂も、根も葉もある話であるらしい。一方、「滋賀県民のデパート」平和堂が、彦根と瀬田に続き、城陽市に新型大店舗アル・プラザを展開。アミューズメントとショッピングの楽しみをドッキングした施設として、評判が高い。動きのあるものは見逃さないネイキッド魂を胸に、彦根の平和堂本部へと足を踏み入れた。

「平和」は父親の、
熱い思い。

御所 平和堂の社長さんのお名前が「平和(ひらかず)」とは、正直言ってびっくりしました。

夏原 私は昭和19年、戦争のいちばん激しかった時期の生まれなんです。軍隊に行っていた父親が一時帰郷していた際に、「もう会えるかどうかかわからない。人間にいちばん大事なものは平和だ」と、命名してくれました。役場からは「非国民や」と脅されたそうですよ。

御所 「悪魔ちゃん」騒ぎのようですね。

夏原 ええ、人ごととは思えませんでしたね。あちらは親の工ゴで子供に重たい名前をつけようとしていたが、こっちはそんな経緯で親の真剣な気持ちが籠もっている。しかも、会社にもその名を付けられたのですから、責任が重い(笑)。

御所 「平和堂」の平和さんじゃなく、平和さんあつての「平和堂」なんです。学生時代は京都におられたようですが…。

夏原 天王町に下宿して、「京都でなければできないこと」と、歌舞伎研究会に熱を入れていました。

御所 今の若い人にもブームですが、研究会というのはどんな活動ですか？

夏原 当時は演し物が少なく、南座だけでなく大阪の新歌舞伎座や東京にも足を伸ばしたり、歌舞伎のかわりに祇園会館で浄瑠璃を観たりしました。現在のように解説付きじゃないので、聞いていても意味がわからない。それは原作を読むとしても、仕種や見え、振付の意味、時代背景など、研究することはいっぱいありましたよ。

御所 私も隈取りには興味がありますね。ずっとこだわってる



面もそうなんです、リレハンメルの「はつべに日の丸」にせよ、Jリーグのサポーターの熱狂ぶりにせよ、顔にものを施すことで、人は変身願望を満たし、内面を表現できるんじゃないか。時代のツールとしてだけでなく、歴史的に意味があるのでは、という気がするんですが……。

若者よ、

どろどろの外へ飛び出せー!

御所 学生時代には、ほかにどんな経験をなさいました？

夏原 卒業前に、これも「学生時代でなければできないことを」と、半年かけてヨーロッパ

夏原 表現という意味で共通点はあるでしょうね。歌舞伎の隈取りで、表現力は確実にアップする。そのうえ衣装を着けると、小柄な役者さんが舞台の上では3倍にも見える。台詞だけでは不足するもの、すなわち心を、顔かたちで現したのでしょね。

旅行をいたしました。

御所 卒業旅行の先駆けですね。

夏原 前年に国外旅行が自由化されたばかりだったんですよ。しかも英語が苦手で、かなり悩んだんですが、「行きやあなとかなるよ」と先輩に励まされて、思いきって持ち出し限度の500ドルで貧乏旅行をしました。ヒッチハイクやバスを利用してソ連からスロバキア、ヨーロッパ大陸。アテネからアフリカ、インドと通って帰ってきました。

御所 貴重な経験ですね。現在では危険で行けないような国にも行かれています。

夏原 当時は交通公社では「危なくて、旅行者には行けませんよ」と言われました。治安は悪くても、日本人は初めてだと歓迎されました。土地の人にはずいぶん親切にしてもらいました。恩返しのため、外人のヒッチハイクを乗せたり、ホームステイ先になったり、は昔からしています。

御所 生活のなかで「温かい交流」をやっているのも、自分の体験に基づいてればこそですね。それにしても行動派ですね。

夏原 いや、むしろ慎重なほうですよ。ただ、人間は環境の動物ですから、慣れてしまうと抵抗感がなくなる。海外へ行って食事がダメとか、トイレが汚いとか、そんなことは全く平気になりましたね。何よりも、外から見たおかげで「日本は良い国だ」と実感できたのが良かった。

御所 若い時にどんどん新しい環境に入っていくべきでしょうね。

そこにいるだけで楽しい、街の盛り場のミニ・ヴァージョンを。

御所 お仕事の話になりますが、百貨店とスーパーの違いは一言で言うとう？

夏原 売場面積や商号などいろんな要素がありますが、商圏の違い、扱う商品の違いが大きいですね。滋賀県は広い割に人口が少なく、百貨店のように広い商圏は持てませんが、ムダなものは置けない。自ずと商売のやり方が違ってきます。

御所 ひと昔前のような百貨店信仰も崩れ始めているような気がしますね。

夏原 百貨店とスーパーはうまく住み分けられていると思いますよ。百貨店は、たまにしか行かず、たまにしか買わないから夢の要素がある。同じお客さんが、スーパーへは少なくとも週に1ペンは来られる。近江牛のすき焼きはうまいけれど、毎日はいくらでも食べないようなもんでね。

御所 日常生活を大事にしておられる。ところで最近、平和堂が大きく変わったという感じを受けます。城陽や瀬田のアル・プラザをはじめ、大津のエスタ等ネーミングの変化はなぜですか？

夏原 アル・プラザは、Ally Plazaで、物販だけでなくコミュニティに求められているいろんなものを集めた店舗にしています。従来の百貨店にもショッピングの楽しさや便利さは十分あったんですが、「ただ歩いてだけでも楽しい」場所をお客さまに提供しよう、様々に取り組んでいます。

御所 マルチビジョンシステムや映画館、アミューズメント施設などですね。マーケティングの世界ではモノの消費から時間の消費へ、あるいはHaveやDoからBeへ、が言われていますね。

夏原 レストラン一つをとっても、それが目的で出かけるようなショッピングが地元であれば、都心へ出るのはまた違った楽しさがありますよ。また、今度南彦根駅前に計画中の新店舗では、四条河原町のような街の盛り場のミニ版を構想しているんですよ。

御所 売場面積1万坪弱の京滋地区最大のショッピング・センターになるわけですね。

夏原 京都では土地が高すぎるので、とてもできませんが(笑)。

御所 これは、滋賀でしかできないことですね。それにしても、このボリュームは凄い。滋賀の北部は長浜ドーム球場や黒鷲等、ほんとに元気でですね。県庁所在地も考え直さないと(笑)。

夏原 長浜の努力はたいへんなものです。彦根はお城にアグラをかけた、「本物があるんやから、新しいもんは要らん」ような態度を決め込んできた。伝統があるのも良い悪いで、もうそろそろ発展的になりませんか。

御所 伝統に頼ってたらロクなことにならない(笑)。いつも、京都で言っていることです。若い時にどんどん新しい環境に入っていくべきでしょうね。



(御所氏へのメッセージ)

御所光一郎「クラフティム」プロデューサー。夏原平和氏より

「今日が初対面ですが、思いのほか和やかに話せました。面白い人ですね。本業はマーケティングですか。おかげで新店のハースに対して、豊富な知識を聞かせてもらえ、たいへん有益でした」